

<研修報告> 令和7年7月9日 小児整形外科

小児脊椎変形いわゆる側弯症について

講師：鹿児島大学病院整形外科 河村一郎

【側弯症とは】：なんらかの原因で冠状面（体を前後に分割する面）に置いて脊柱が側方に湾曲した状態。定義は Cobb 角が 10 度以上。立位の単純 X 線画像で評価。

【小児側弯症の病態】：様々な原因で背骨が曲がってしまう疾患。変形が進行するにつれて疼痛が生じたり、胸郭変形により呼吸機能に悪影響を及ぼす。角度が大きい場合は成人に達しても変形することがある。

【小児側弯症の治療】：①経過観察 ②装具治療 ③手術治療 疾患原因、年齢、成長の過程、曲がりの角度を考慮し治療法を選択していく。

【学び】

小児脊柱変形もその病態は様々で各分類で目的や治療異なることを学んだ。

変形の大きさや成長過程を評価し適切な時期に必要な治療の介入が必要。小児側弯症を新生児期に外観で気づくのは難しく背中や臀部の多毛。股関節の開きが悪いなど気になる点があれば早期に精査につなげることが大切だと学んだ。今後の仕事で上記の学びを生かしたい。